

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：神経難病プログラム

病院名：東名古屋病院

2. 診療科（専門領域）：神経内科

3. コースの概要

留学期間中、神経内科にて神経難病の症例を経験する。

4. 短期目標

神経難病の診断に必要な基礎知識、検査法、また疾患、重症度に応じた治療方法の基本を修得することを目的とする。神経難病は疾患の幅が広く、また療養期間が長期に及ぶため、各疾患のその病期に応じた特徴的な臨床症状を理解するとともに、様々な合併症に遭遇するため、広く内科全般に渡る基礎的臨床力の修得もできることを目標とする。

5. 長期目標

内科学の専門知識と幅広い臨床能力を取得し、内科医としての全人的な育成を行う。また、内科診療における問題点を発見、解決する能力を身につける。

6. 取得手技

神経内科における各疾患の診断基準を理解し、的確な診断および各疾患の活動性、重症度の基礎的判断力が修得できる。

基本的手技を中心に集学的治療に到る各種手技(腰椎穿刺、中心静脈カテーテル留置、輸血、栄養管理、人工呼吸管理等を含む)に関しても有る程度修得できる。

7. 研修期間 最大6ヶ月

8. 募集人数 1名

9. 診療科の実績

主要疾患	入院数（年間）
Parkinson 病	131
進行性核上性麻痺	67
多系統萎縮症	31
筋萎縮性側索硬化症	58
脊髄小脳変性症	20
Prion 病	0
ギラン・バレー症候群	8

10. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9 名

診療科研修の指導にあたる医師 4 名 (9 名)

主として研修指導にあたる責任医師 犬飼 晃 (診療科経験年数 28 年)

11. コンセプト

当科で取り扱う疾患は、Parkinson 病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、Prion 病、ギラン・バレー症候群、多発神経炎、脳炎、多発筋炎、筋ジストロフィーなど多岐に渡るのが特徴である。これら神経変性疾患の診療に必要な基礎的知識および技能を修得する。

神経変性疾患の臨床症状は非常に多彩で、その罹病期間も非常に長期にわたるので、疾患特有の症状をその病期ごとに学べるとともに、その対処法を修得できる。長期の全身管理（栄養管理、呼吸管理等）も必要で、幅広い内科的知識を要求されるので視野の広い診療を目指す姿勢を身につける。

12. その他（研修関連情報など）

神経難病カンファランス・脳卒中カンファランス（各週1回）